

# 防災だより

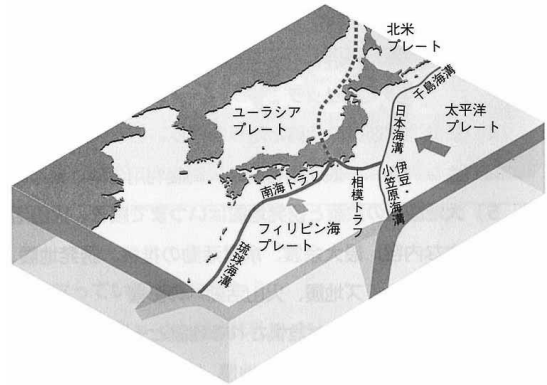
～みんなで広める防災の環～

今月の防災だよりは、地震のしくみと被害について紹介します。

## 【地震列島日本】

日本の国土面積は、地球上の陸地の約400分の1に対し、日本列島およびその周辺から吐き出される地震や火山噴火のエネルギーは、地球全体の約10分の1に達しています。これは、日本列島が世界有数の変動帯に位置しているからです。

日本列島の周辺は、**太平洋プレート**、**フィリピン海プレート**、**北米プレート**、**ユーラシアプレート**この4枚のプレートがひしめき合っています。地球の表面は十数枚のプレートと呼ばれる岩盤に覆われていて、それらは互いに動き合っており、これらプレートの境界あたりで、地震活動や火山活動が活発なのです。プレートの境界では、**海のプレートが陸のプレート**の下に沈み込んでいる所や、陸のプレート同士がぶつかり合っている所もあります（図1参照）。



(地震調査研究推進本部地震調査委員会編  
「日本の地震活動—被害地震から見た地域別の特徴—」(第2版))

図1 日本近海のプレート図

## 【地震には「顔」がある】

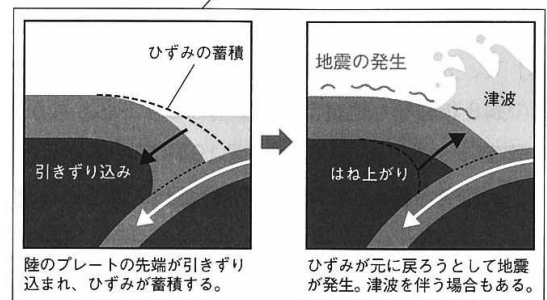
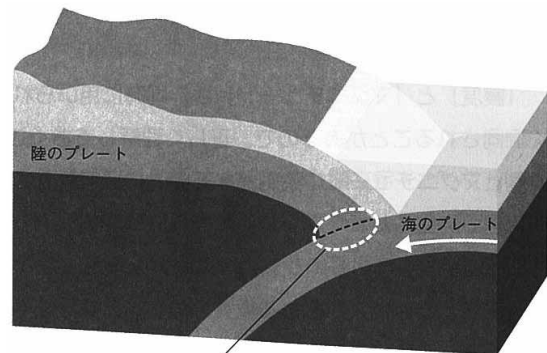
地震は、「海溝型の巨大地震」と「内陸直下の地震」、「沈み込むプレート（海洋プレート）の中が割れて起きる地震」に大別できます。

「海溝型の巨大地震」は、**太平洋プレート**や**フィリピン海プレート**が日本列島の乗せている**北米プレート**や**ユーラシアプレート**の下に沈み込んでいる海溝部で発生します。海のプレートは、1年間に数cm～10cmの速さで陸側のプレートの下に沈み込んでいきますが、限界に達すると元に戻ろうと大きく反発します。この時プレートの境界で大規模な断層運動、つまり大地震が発生します。また、海溝型地震はM8～9クラスの超巨大地震になることが多く広範囲にわたって震害をもたらす、大津波が発生して沿岸に襲来します。

「内陸直下の地震」で大きな災害をもたらすのは、活断層の活動によるものが多いです。一般的に震源が浅いため、直上の地表は激しく揺れ、局所的な災害を引き起こします。

「沈み込むプレート（海洋プレート）の中が割れて起きる地震」を「海洋プレート内地震」、「スラブ内地震」と呼びます。海洋プレートが海溝に沈み込む手前で割れて起きる地震を「アウターライズ地震」と呼びます。

内容が多いため、来月の防災だよりではこの続きをご紹介します。



(平成23年度広報誌『ぼうさい』内閣府)

図2 海溝型地震のしくみ

※認定特定非営利法人日本防災士機構「防災士教本」より抜粋

【お問合せ】総務課 管財係 担当：山口、竹内

## 防災クイズ

フィリピン海プレートは小さな海のプレートですが、このプレートが沈み込む相模トラフや南海トラフで、関東地震や東海地震、南海地震が発生します。ではこのトラフ (trough) とは何を意味するでしょうか？

①浅い海溝 ②深い海溝 ③大きい海溝 ※答えは広報紙の最後のページで確認できます。